

やすらぎ通信

第23号 (平成24年10月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

神無月(初霜月)

里の秋

作詞 齋藤信夫 作曲 海沼実

静かな静かな 里の秋
お背戸に木の実の 落ちる夜は
ああ 母さんとただ二人
栗の実 煮てます いろりばた

明るい明るい 星の空
鳴き鳴き夜鴨(よがも)の 渡る夜は
ああ 父さんのあの笑顔
栗の実 食べては 思い出す

さよならさよなら 椰子(やし)の島
お舟にゆられて 帰られる
ああ 父さんよご無事(ごぶじ)でと
今夜も 母さんと 祈ります

シーズンはまた一つ進み、10月を迎えました。10月は陰暦で神無月。全国の神さんが出雲の国で開かれる会議に「出張」されいなくなるとか。逆に出雲では全国の神さんたちがやってくるので、「神在月」と呼ばれています。古代の神様を人間の行動のように現代的に表現すると神様はとても身近に感じられますね。そういえば、奈良の鹿は「神の使い」として古来あがめられ、江戸時代には鹿を殺した人は即刻死罪になったと言われていました。このため、当時の奈良の町人たちは、毎朝、誰よりも早起きし、家の前に鹿の死体がないかを確認するのが日課だったとか。もし、家の前に鹿の死体が横たわっていたら、誰も見ていないのを確認してそっと隣家の前に死体を持っていったという笑い話も残されています。それほど、奈良では鹿は神聖な生き物でした。何故奈良では、鹿が神聖とされたのか、この由来は春日大社に「言い伝え」として残されており。その昔、常陸の国（今の茨城県）の鹿島神宮の神様が奈良に出張なさったときに、白い鹿の背中に乗って春日大社までやってこられたことから、鹿は「神のメッセンジャー」となったというわけです。もうひとつの言い伝えを現代風にお話ししましょう。これは、東大寺に残っている言い伝えです。奈良時代、東大寺の二月堂のお水取りが行われたとき、時の高僧実忠が、全国からの神々の行事への出欠を名前を読み上げ取っていたときのことです。

「若狭の神」の名前を読み上げたら返事がない。「若狭の神」はお水取りに出席すると予め届けていたのに、魚釣りにふけていて時間を忘れ、遅刻をしてしまったのです。

遅れて来た「若狭の神は」身を低くして実忠に頭を下げ、「お詫びのしるしとしてこれから毎年お水取りには、若狭の国の聖水を二月堂まで送り届けます」と約束しました。これが、現在も続いている若狭・神宮寺と遠敷（おにゅう）川・鶺鴒の瀬（うのせ）で行われている「お水送りの行事」だと言われていています。このように現代的なストーリーで語ると昔の言い伝えも生き生きとしてきますね。

さて、万代池も今月末になれば季節の装いをぐっと秋色に変える時期を迎えることになります。そして、晩春に飛び去ったカモやオオサギたちも再び新しい仲間を加えて、北の空から戻ってくる時期を迎えます。万代池は春とはまた違う一年で最も美しくしっとりと落ち着きとやすらぎを与えてくれるシーズンに入ります。



ロバート・レッドフォード監督・主演の「The Horse Whisperer」（日本題名「モンタナの風に抱かれて」）という美しい映画がかつてありました。

この映画は1998年に作られましたが、ロバート・レッドフォードはこの作品に先

立つ 1992 年に、当時まだ無名だったブラッド・ピットを起用し「A River Runs Through It」という同じくモンタナの自然を背景とした美しい作品を撮っています。いずれの作品も、登場人物の心のなかに抱いている葛藤や機微を、それらとは無関係に時代を超えて存在し続ける自然に投影しながら繊細に美しく描いています。それらを通して人間とは何か、自然とは人間にとって何かを問いかけている作品であり、ロバート・レッドフォードの人間観、自然観がとてもよく出ている作品です。

今月は、これらの作品を通していろいろ考えてみたいと思います。

この映画を見ておられない方もいらっしゃると思いますので、簡単にまずストーリーをご紹介します。

愛馬ピルグリムをこよなく愛する少女グレース(スカーレット・ヨハンソン)は、弁護士之父ロバート(サム・ニール)と有名雑誌の編集長でキャリアウーマンの母アニー(クリスティン・スコット・トーマス)の3人で暮らしていました。表面的には平和で幸せそうに見える家族であるけれども、仕事に忙殺されてほとんど互いに顔を合わすこともなく暮らす父と母。家族関係が希薄となったなかで暮らしているグレースにとって唯一心を通わすことができるのが愛馬ピルグリムでした。

しかし、ある事故をきっかけにこの家族の生活が暗転します。ある冬の日の早朝、まだ夜が明けきらないうちにグレースはそっと家を抜け出し、友人のジュデスと示し合せ愛馬ピルグリムを預けている牧場へと向かいます。二人で早朝の乗馬を楽しむためです。しかし、あたり一面真っ白な雪が積もっています。これが災いしました。乗馬の途中坂道にさしかかったとき、ピルグリムは足を滑らせ二人の馬がぶつかり倒れ込んでいきます。

そこに運悪く大型のトレーラーがやってきました。ブレーキを踏んだものの間に合いません。この事故で友人のジュデスは死亡し、ジュデスの馬も亡くなってしまいました。一方グレースは命が助かったものの片足を切断してしまいました。ピルグリムも瀕死の重傷を負い、獣医はアニーに安楽死させることを提案しますが、アニーは深く心に傷を負ったグレースを立ち直らせるにはピルグリムが必要とこれを拒絶します。

ピルグリムはなんとか命を取りとめました。顔に無残な醜い傷跡が残り、事故によるトラウマにより人間不信になったピルグリムは今までの大人しいピルグリムではなくなりました。人間を激しく拒否する手のつけられない暴れ馬になってしまったのです。

これまで、心の通じ合っていたグレースをもピルグリムは激しく拒絶します。ピルグリムが助かったという知らせで一旦元気を取り戻したかに見えたグレースですが、事故後初めてピルグリムと対面したグレースは、ピルグリムの醜く傷ついた顔とグレ

ースをも激しく拒絶するピルグリムの様子を見て激しく動揺し、これまで以上の深い傷を心に負ってしまい、ついには絶望から自ら命を断つことも意識し始めます。

そのグレースの姿を見て、グレースを立ち直らせるのには、ピルグリムの心の闇と恐怖を取り除き元通りにすることが必要と、仕事を休み、その方法を探し回ります。するとあるとき図書館で一冊の本に出会い、そのなかにあった「Horse Whisperer(ウィスパーラー)」という見慣れない活字に目を奪われます。

「人間の誕生のはるか前、馬は草原で草を食み、“声”とともに暮らしていた。やがて人間が現れ、馬を狩った。使役馬として利用されるまでは馬は食料だった。そのため馬は人間を信ぜず、かき消せない恐怖感を心の奥に抱えていた。新石器時代に馬が飼われ始めると馬の心を理解する人間たちが現れた。馬の魂に触れ、心の傷を癒しに馬にささやく Whisperer。傷ついた馬にやさしく言葉をかける彼らは Whisperer と呼ばれた。」

これだと思ったアニーは、急いで電話帳などを繰り Whisperer を探し始めます。何十人、何百人と探しては電話をかけ話をしますが、なかなかそのような能力を持つ人は見つかりません。しかし、ついにモンタナで、馬とともに暮らしているトム・ブッカー（ロバート・レッドフォード）という人物に行き当たります。アニーは、電話で必死に受け入れを依頼しますが、トムにはニューヨークで暮らしているキャリアウーマンの気まぐれとしか映りませんでした。トムは、そもそも馬のことを分かっていない人間が来ても無駄だとアニーの依頼を断ります。しかし、諦めきれないアニーは意を決しキャリアカーにピルグリムとグレースを乗せ、強引にモンタナに向かいます。

突然やってきたアニーにトムは驚き、当惑しますが、そのうちにあきらめて帰ることを期待し受け入れます。しかし、毎日毎日ピルグリムと向き合い、必死で心を通わせようとしているトムの姿や、モンタナでの自然や馬たちとともに、背伸びせずゆったりと暮らすトムやトムの兄夫婦などの姿を見てアニーの心は少しずつ変化していきます。また、グレースの心も徐々に開いていきました。他方、そういうアニーの心の微妙な変化を感じ取ったトムも、アニーたちを受け入れていきます。

そのようにお互いの心が開き始めたある日の夕刻、アニーは、テラスに腰掛け自分の方を見て微笑んでいるトムに語りかけます。

アニー 「何よ。」

トム 「落ち着かない人だ。」

アニー 「都会暮らしはせわしないから。時々私のことを笑っていない？」

トム 「どうかな。」

アニー 「だめ。笑っていないと言わないと。」

トム 「都会の女性は、セリフまで指示を？」

アニー「この社会は男社会よ、ブッカーさん。」

トム 「トムと（呼んでくれればいい）。笑ったかもね。ここでは力を抜いた方がいい。」

アニー「そうね。素敵なところだわ。休暇にはいいけど。ここに住んだら時間を持ってあましそう。(人)恋しくないの？」

トム 「何が？」

アニー「都会に住んだことは？美術館、劇場にレストラン、コンサートとかいろいろ（あって楽しいところ）よ。」

トム 「シカゴは都会かな？」

アニー「(えっ) 住んでいたの？」

トム 「妻と出会った。」

アニー「シカゴで女性と結婚していたの？」

トム 「もちろん、女だ。」

アニー「そういう意味じゃなく。」

トム 「私は工学部の学生。彼女はチェロを。彼女が弾いたドボルザークの曲は人生で一番美しかった。さて、笑っていたのはどちらかな？」

アニー「父は外交官で、生まれはロンドン。海外を転々。12才まで海外で過ごしたけれど、こういう故郷は持てなかったわ。」

映画の中ではほんの数分の短いやりとりですが、ロバート・レッドフォードはこのトムが語った「ここでは力を抜いたほうがいい」という何気ない言葉でこの作品のモチーフを全て表そうとしています。

それは「人間の幸せは、いつも何かに追い立てられ『無理をして』生きるところにはない。都市には様々な刺激的な魅力がいっぱい詰まっていて充実した生活が送れそうだけれども、それはそのように『追い立てられている』だけで、決して幸せを求める人間の心を満たすものではない。本当の幸せは、無理をせずに自分らしく自分のペースで生きていくところであり、それは大自然の中に身を横たえることによって成し遂げられる。」ということです。

映画のこのあとの最後の展開について簡単に触れておきましょう。

アニーとトムは互いに心を通わすようになり、ついにアニーはピルグリムとグレースだけニューヨークに返し、モンタナに残ろうと決心します。そこで、一番気になったのがグレース。しかし、グレースは、意外にもアニーがモンタナに残ることに理解を示します。それは、グレースもニューヨークでの生活で父と母の間に心の隙間ができていたことを感じていたからです。しかし、このグレースの成長した態度により、逆にアニーの気持ちは冷静さを取り戻し、アニーはトムへの思いを自分の心の中に封

印し、一転夫の待つニューヨークへと車を走らせます。ここでこの映画は終わります。

こうした最後の結末から、商業ベースでこの映画は「美しいモンタナの大自然をバックにした大人のラブロマンス」として宣伝されていましたが、ロバート・レッドフォードの心はそのような浅薄なものではなかったと思います。

彼は、この映画に先立つ6年前に、冒頭に申し上げました「A River Runs Through It」を撮っていますが、ロバート・レッドフォードの思いは同じだったと思います。

この作品は、厳格な牧師の父、そのもとで育った二人の兄弟、真面目で秀才の兄ノーマン、陽気で才能にめぐまれながら自分の生きる道を見定められない弟ポール（ブラッド・ピット）の3人の人生のなかでの心の葛藤を描いた映画ですが、そのモチーフとして横たわっているのは、父とともにフライフィッシングを楽しんだ故郷の川。その水をとうとうとたたえている美しい川が、それぞれの人生や心の葛藤もすべて包み込み何事もなかったかのように永遠の時を刻む。映画のラストシーンは、年老いたノーマンが若くして不幸な死をとげたポールや厳しかった父との思い出を頭に思い浮かべながら川面に糸を漂わせ、川は何事もなかったかのように昔とおなじように流れているという場面で終わります。人生にいろいろなことがあっても、「A River Runs Through It = 川はそれをすり抜けて流れる」というわけです。フライフィッシングと川の流れ、人間と自然との関わりの中で「肩の力を抜いて生きることの意味」を問いかけた映画であり、ここでもロバート・レッドフォードの思いが伝わってきます。

ところで、この舞台になっているモンタナ州は、アメリカの中北部の州で北側はカナダと国境線を接しており、西側の山林地域はロッキー山脈につらなります。高原や山が多く、面積は全米で4番目に広い一方、人口は100万人足らずで少なく、総人口は下から7位、人口密度は下から3位の州です。また、モンタナ州は「空が大きく見えるくらいに回りには自然しかない」ことから「Big Sky Country」との愛称で呼ばれており、全米一の豊かな大自然とその美しさを誇っています。

州内には、イエローストーン国立公園、グレイシャー国立公園という二つの国立公園があり、イエローストーンには巨大なガイザー（間欠泉）があるなど、その手の入らない美しい自然により多くの観光客を引き寄せています。「モンタナの風に抱かれて」「A River Run Through It」の二つの映画は、このイエローストーン国立公園のあるイエローストーンカントリーで撮影されました。

モンタナの地形は、その名が「Mountain」から来ているように、高原や山林が多く、北部はカナダに接する高緯度地帯であることなどから、気候は一年を通じて寒く、6月中旬から9月中旬までの事実上春と夏を兼ねているような短い夏が終われば、あと

は長い冬が続きます。特に真冬の寒さはことのほか厳しく、最も恐ろしいのは冬のブリザードだと言われています。道路を自動車で走っているときにブリザードに遭遇するのが最も危険で、あっという間に道路も車も雪の下に埋まり凍死をしてしまうと言われています。

多くの面積を占めている森林はすべて人間の手の入っていない原生林で、その中に多くの野生動物が生息しています。中でも、マウンティンライオンと呼ばれるピューマの仲間が最も危険で、時には人が住む地域にも出没し、人間が危害を蒙ることもあります。森林火災はよく起こり、特に近年立て続けにモンタナで大きな森林火災が発生しました。地球温暖化による夏の気温上昇と干ばつが原因とされ北米全体で山林火災は急増しています。森林火災が起こったときは、森林消防隊やスモークレーンジャーと呼ばれるヘリコプターを用いた消火部隊が消火に当たりますが、人数が足りないこともあり、住民も総出で鎮火にあたるそうです。

モンタナは西部開拓団に土地を追われたアメリカ先住民の最後の砦となった地域で、西部開拓団の白人たちに対し勇猛果敢に戦いを挑んだ古戦場も州内には残されています。先住民の人口も全体の6.3%と多く、現在も州内の数多くの居留地(リザヴェイション)で多くの先住民が暮らしています。

人口そのものは非常に少なく州都ヘレナ市は2.5万人、周辺部も入れて7万人弱。最大のリビング市で10万人弱、周辺部を入れて15万人程度です。家と家とが数マイルはなれているというのはモンタナでは当たり前で、人口が少ないことから、人々は広い地域に散在して生活を送っています。

実は私の英会話の先生も、このモンタナからやっています。彼女の本職はプロテスタント教会のミSSIONナリー。小さい頃に両親とともに日本に来ていて、小学校へ入る年代で、両親の教育方針で、カレッジを出るまではモンタナに帰り、数年前から再び、日本に兄とともに赴任してきています。

(なお、私はクリスチャンではありませんが、英会話の約束事項で最後の10分間はバイブルを読むことになっているので、バイブルの内容は一通り読んで知っています。今は、二人が加わって3人の生徒と先生とでChant(おしゃべり)するのですが、1年間近くずっと先生とマンツーマンだったので、英会話のSkillとともにバイブルの理解は相当深まりました。これは、ヨーロッパの古典絵画やクラシック音楽の鑑賞のみならず、国際関係の理解にも相当役立っています。)

その彼女曰く、モンタナには奈良の曽爾高原のような草原が無限に広がっている。そこにぽつり、ぽつりと家が離れて建っていると言っていました。まさしく、「HorseWhisperer モンタナの風に抱かれて」に出てくる風景そのものですね。

ロバート・レッドフォードは 1937 年カリフォルニア州サンタモニカ生まれ。彼の作品の舞台にモンタナやシカゴがよく出てきますが、特にその中でモンタナにかける思いが強いことからモンタナ生まれではと思いましたが、残念ながらそうではありませんでした。

彼はポール・ニューマンとの共演映画「Butch Cassidy and The Sundance Kid」(明日に向かって撃て!)で、1966 年に一躍メジャーな存在として世に出て以降、様々な社会派作品と娯楽作品の両方で名演技を披露して今日に至っています。一方、監督としては 1980 年に撮った「Ordinary People」(普通の人々)でデビュー。いきなりアカデミー監督賞を受賞して以降、テーマ性の深い物語を美しい映像でつづる彼独特の世界を構築してきました。

「モンタナの風に抱かれて」はロバート・レッドフォードの監督作品の中でも、秀作だと思いますが、皆様方いかがでしょうか。



お便り

いよいよ今年のシンポジウムも近づいて参りました。9月24日現在、申し込まれている方は約100人でまだ余裕がありますので、是非この通信の読者以外の方にもお声がけいただいてご参加いただけたらと思います。

今年のシンポジウムでは、初めて主催の三者以外から外部の先生をお招きして基調講演をいただくとともに、後半のパネルディスカッション「免疫と健康—笑いは健康の原点」では、落語家の笑福亭松喬さんにご出演いただき、まず落語を語っていただいたうえで、松喬さんにもディスカッションに加わっていただくということになっており、大変充実した内容となっております。

なかでも、松喬さんは、上方落語界きっての実力派落語家ですが、先月8日の読売新聞(夕刊)でも大きく取り上げられましたように、現在末期の肝臓がんと宣告されながらも今もなお天満天神繁盛亭の高座にご出演なさるなど、強い精神力でがんと闘っておられます。しかも、その記事によりますと、松喬さんは、今後4年間で、今月を皮切りに年に4回、合計16回の独演会をこなしていくという発表もされています。主治医からも「余命6か月ぐらいと考えていた。奇跡としかいいようがない」と打ち明けられたとか。

その記事の中で、松喬さんは「がんで悩む人はいっぱいいるから、少しでも励みになりたい。自分は、これっぽっちも死ぬなんておもてへん。がんと一緒に仲良く、いつまでも生きるつもり。その姿を見てほしい。」とおっしゃっています。

こうした松喬さんの姿勢は、多くのがん患者さんの励ましになるとともに、国民二

人に一人ががんになる時代を迎えて、私たちがどのようにがんに向き合っていけばよいかを教えていただいているような気がします。

シンポジウムでは、松喬さんの生の声でこうしたお話しが伺えるものと思っており、是非ご期待ください。

NEWS

【(継) 進む！放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して1年余りが経過しました。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺 IMRT（強度変調放射線治療）を順次開始し、今年4月からは頭頸部腫瘍に対する IMRT も開始しています。画像誘導技術を用いた低侵襲治療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対する IMRT でも3ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっています。

また、小線源治療（高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法）も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 島本 茂利まで

【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”による

手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能

となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」（ダ・ヴィンチ）を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関係する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が生かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

【(継) PET-CT 地域の医療機関からの検査受付しております—画像診断科】

PET-CT検査につきましては、先月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けています。お問い合わせは画像診断科 RI（核医学）・PET 検査室まで。

なお、従来行っていなかった PET-CT によるがん健診の実施を現在検討しております。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設! 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター

11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています!

当センターでは、下記の11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください
ようお願いします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継)入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター(やすらぎセンター)におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【(新)参加者募集! 相愛大学×当センター×森ノ宮医療大学連携シンポジウム】

「生と死を、今考えるⅢ—“疫を免じる”・がんと免疫の力—」

(締め切りは15日までです)

I 基調講演

「ここまで来たがん医療—WT1がん免疫療法の最新の成果—」

大阪大学大学院医学系研究科教授 杉山 治夫

関連講演

「がん診療における免疫力」

当センター医務局長 谷尾 吉郎

II パネルディスカッション「免疫と健康—笑いは健康の原点」

① 落語 落語家 笑福亭 松喬

② ディスカッション

コーディネーター 釈 徹宗(相愛大学人文学部教授)

パネラー 笑福亭 松喬(落語家)

浅田 章(相愛大学人間発達学部教授)

青木 元邦(森ノ宮医療大学保健医療学部教授)

山田 義美(当センターがん患者会「ひまわり」代表)

谷尾 吉郎(当センター医務局長)

日 時 10月20日(土) 午後1時～午後4時30分
場 所 本館3階講堂
申込み 当センター 06-6692-2222
または、ホームページ申込み画面より
期 限 9月10日(月)～10月15日(月) 先着200名

【(新) 参加者募集！ 相愛大学×当センター連携事業

第3回糖尿病予防セミナー】

(今日から受付を開始します)

日本では、糖尿病や糖尿病の疑いのある方が増えています。その改善には食事などの生活習慣の改善が欠かせません。そこで当センターと相愛大学が連携・協働し、患者さん以外の方も対象に、本セミナーを開催し、お一人お一人が食事など生活習慣の問題を考え、改善するきっかけを提供させていただきます。

なお、本セミナーは『世界糖尿病デー』(11月14日)の行事の一環として開催します。

日 時 11月10日(土) 午後1時30分～4時
内 容 テーマ「糖尿病予防のキーワードは野菜！」
糖尿病予防で最近、特に注目を浴びているのが野菜！
1日に必要な野菜は350g。しっかり摂れていますか？
聞いて、見て、体験して考えてみませんか？
① ミニ講座
② 相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナー
・食育SATシステムによる食事診断
・体脂肪、筋肉量測定
・血糖値測定
・野菜コーナー、クイズラリーなど
場 所 本館3階講堂・保健教室・通路
申込み 当センター 06-6692-2222
またはホームページ申込み画面より
期 限 10月1日(月)～11月5日(月) 先着200名

【(新) 大好評！！

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日 時 10月24日(水) 午後2時～3時30分

場 所 本館1階アトリウム
内 容 大事なのもう一度「HbA1cの変更と検査結果の見方」
糖尿病代謝内科部長 馬屋原 豊
「インスリンの話 あれこれ①」
薬局薬剤師 的場 美香
「食品表示をチェック」
管理栄養士 笠井 香織

【(新) 今月のすこやかセミナー】

① PET 検査ができるようになりました！～PET 検査ってどんな検査？～

日 時 10月11日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階保健教室
講 師 画像診断科 医師 山川 美帆
(参加無料)

② 糖尿病性腎症の最新情報一覽解を目指した治療戦略と新薬への期待

日 時 10月26日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階保健教室
講 師 腎臓・高血圧内科主任部長 林 晃正
(参加無料)

【(新) 第3回肝臓病教室】

テーマ：NASH（肥満・脂肪肝・糖尿病の人のリスク）

日 時 10月27日(土) 午前10時～12時
場 所 本館3階保健教室
内 容 1. メタボを気にするあなたへ ～実はこわい脂肪肝～
消化器内科 副部長 春名 能通
2. メタボを気にするあなたへ ～食事で脂肪肝を予防しよう～
栄養管理室・管理栄養士 織田 都
3. 運動療法について
糖尿病認定看護師 後藤 博美
(参加無料)

【(新) 第21回相愛大学連携コンサート ～クラリネット8重奏～】

～ クラリネットの美しい音色は、やさしい木の温もり ～

日 時 10月31日(水) 午後2時～

場 所 3階講堂

出 演 相愛大学クラリネットアンサンブル

(構成：クラリネット専攻の2回生から4回生までの学生)

演奏曲目 ・愛の挨拶

・川の流れるように

・クラリネットをこわしちゃった

・秋の歌(ふるさと、赤とんぼ、もみじなど)

・となりのととろメドレー

・エンターテイナー

(参加無料)

【(継) 第6回企画展！前田藤四郎 抽象版画後期作品展】

前田藤四郎(1904-1990)氏の、後期の抽象版画の作品を新たに展示します。

なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社し、商業美術に携わる一方独習で版画の世界に入りました。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となりました。

日 時 9月24日(月)～12月21日(金)(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(継) 開催！芦屋市美術協会会員一小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医(1988年、心疾患専門診療科部長で退職)として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版(1作目は自費出版)。多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作16点の写真展を開催しています。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金)(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(予告) 第10回万代・夢寄席 旭堂小二三 講談の会】

～上方講談の若手女流講談師 旭堂小二三が語る人情講談！～

日 時 11月6日(火) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 旭堂 小二三

主 催 万代やすらぎ亭

【(予告) 今年も行います！「ふれあい病院探検隊」】

昨年度、大好評をはくしました「ふれあい病院探検隊」。未来の医師、看護師、薬剤師、診療X線技師、臨床検査技師、PT/OT/ST、医療事務などを目指して府内の高校2年生に、実際に病院の仕事を模擬体験していただくイベントです。

開催日 平成25年1月13日(日)。

(詳細は今月末から配布するチラシで。また、来月号の本通信でも概要をお知らせします。)

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで秋の訪れをキャッチー北側通路周辺ー】

10月に入りいよいよ秋も深まってきました。今月のプロムナードは、紅葉を待つ落ち着いた中秋のたたずまい。ベンチに腰かけてのんびりとコーヒーでも楽しみながら秋の訪れを感じるというのはいかがでしょうか。

今月のNICさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社NICの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 検査室担当 稲垣さんの巻】

稲垣「病院で働きはじめた頃のことです。年配の患者さんが廊下でお困りの様子でしたので、お声をかけて対応させていただいた時、『有難う。親切にしてもらったから』と御自分で作られたビニールの紐で編んだ小さな可愛いわらじをいただきました。

まだ、仕事を覚えはじめた頃で、続けていけるのだろうかと思いがたないときでしたので、この患者さんからいただいたお言葉から、とても勇気をいただきました。

『有難うは、奇跡の言葉である。口に出せば勇気がでる。耳に入れば勇気がわく』という好きな言葉があるのですが、そのときの気持ちを忘れないようにと、その日から机にわらじをつけています。

仕事も4年目を迎え慣れてはきましたが、日々初心を忘れずに、励まし助けてくだ

さる職場の皆さんや同僚に感謝しつつ、患者さんお一人お一人が安心して医療を受けていただけるよう真心こめた対応を心がけ、頑張っていきたいと思っています。」

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。